

速 記 教 本

平成16年度

—第59期生—

参議院速記者養成所

目

速記を始めるに当たって	1
速記の歴史	3
速記の学習について	5
第一章 基礎編	7
基本符号	8
①清音	12
②濁音	15
③半濁音	17
④撥音	18
⑤長音	20
⑥拗音	24
⑦促音	28
⑧畳音	29
変画法	31
文章をつづる要領	32
第二章 省略法編	37
(1)「シ」「ジ」の略記と省略	38
(2)2音節符号	39
①尾イ音の省略	39
②尾キ音の縮記	41
③尾チ音の縮記	42
④頭キ音の縮記	43
⑤頭チ音の縮記	44
⑥尾リ音の省略	45
(3)撥音・長音の略符号	47
①撥音略符号	47
②長音略符号	48

次

(4)キクツの字音省略	49
①2字漢語のキクツの省略	49
②キクツの略符号	53
(5)セ・ネ・ヘ・メ・レの簡記	54
(6)付点による「キ」音の省略	54
(7)音訓換記	54
(8)寓意省略法	55
(9)品詞別省略法	61
①助詞・形式名詞	61
②代名詞・連体詞	64
③接続詞	65
④副詞	66
⑤動詞・助動詞	71
⑥主要な動詞・助動詞の変化	76
⑦形容詞	107
⑧形容動詞	109
⑨名詞	111
⑩数詞	118
(10)語句・成句等の省略	122
①語句の省略	122
②成語・成句の省略	122
③反語の省略	123
(11)会議状況等のあらわし方	124
①発言者の表示	124
②会議状況のあらわし方	125
③話の変わり目・疑問箇所の表示	126
④速記の開始と終了	126
第三章 略符号編	127
終わりに	257

速記を始めるに当たって

音声は瞬間的なものであり、機械的な力をかりない限り後には何も残らず、またそれを聞く人の数にも限度がある。我々が他人の話を聞くときには、最初から最後まで一字一句覚えているわけではなく、大要をつかむにすぎない。記録の方法も現在ではいろいろあるが、紙と鉛筆さえあれば話し言葉の完全な記録が残せるという点において、速記は簡便で、しかも有力な方法である。

文字は元来、話し言葉をあらわすための符号としてつくり出されたものであるが、現在使われている文字で話し言葉をそのまま同時に書きとめることは不可能である。より簡便なものということで平仮名、片仮名ができたが、もっと簡略化された文字が必要となり、そこで考え出されたのが速記符号である。

しかし、幾ら速記符号といっても、五十音をあらわす基礎符号だけでは話す速度についていけないので、1つの線あるいは点で3音もしくは4音を省略する省略法、あるいは単語をあらわす略字などを用いなければならない。また、書くだけではなく、その符号を正しい文章に書き直す作業が伴ってくる。それには、直線、曲線、点、またはその角度、長短、位置などが正確に書かれていないと、意味をなさない文章ができたり、読むことができなくなる。

速記というものは、符号が速く書けるからいいというものではない。話された言葉をいかに正しい文章にするかということが重要であって、速記符号はそのための一つの手段にすぎない。確かに速記符号を覚えれば、さらに速い速度で書き取ることができるが、往々にして自分で書いた符号が読めなくなることがある。これは、知らない言葉は聞こえないとよく言われるように、自分がその言葉を知らなかったことに起因するものと、もう一つは誤った書記がある。これは、符号が簡略化されているためにちょっとした角度や大きさに意味や音が違うために正しい判読ができなくなるからである。

速記は技能である。頭で覚えるのではなく、手に覚えさせなければならない。符号を全部覚えたからといって、すぐ話し言葉が書けるわけではない。毎日の書記練習と文章に訳す練習とによって徐々に速度と正確さが増していくのであって、速記の上達の成否はこの単調な反復練習に耐えられるかどうかにあると言ってよい。

速く楽に書くためには、符号をなるべく書かないで読める方法があればよい。理想は何も書かないことだが、これは現実には不可能なことである。要するに、手に負担をかけるか、頭に負担をかけるかによって速記符号は変わってくる。しかし、そこに

は必然的に「高速度」と「正確さ」との二律背反的な問題が出てくる。

速記を初めて書こうとする人は、例外なく速記符号を速く書こうとする。しかし、それでは速記の上達はおぼつかない。速記というのはゆっくり書かなければいけない。焦って書くのは誤記、誤訳の原因になる。まず、符号の形、角度、大きさを手が覚えるまで、ゆっくり正しく何度も練習することである。次の符号を思い出すまで筆がとまり、それからまたさっと次の符号を書くということはしないように注意してほしい。平均した速度で滑らかに書く方が、正確度、速度からいって数段の違いがある。ここに「速記は頭で覚えるのではなく手で覚える」ということの意味がある。条件反射的に符号が出てくるまで練習してもらいたい。速記は一日一日の積み重ねが重要であることを肝に銘じてほしい。

それから、前にも述べたように、速記は一つの手段にすぎないのであって、正しい文章に訳して初めて価値が出てくるものである。速記が書けても、正しい文章に訳せなければ、何の意味もなさない。そして、正しく訳すには、広く深い知識と豊かな国語力が要求される。速記の練習と同時に、さまざまな知識、幅広い教養を身につけてもらいたい。

〔練習するときの注意〕

◎毎日欠かさず練習すること

◎一日一日の覚えるべきものを確実に消化していくこと

◎焦らず丁寧に書き、反復練習をすること

◎角度・長短・位置を正確に、とめる
流す・はねるをはっきり書くこと

◎書いた符号は必ず読み返すこと

◎同じミスを繰り返さないこと

速記の歴史

文字を発明した人間が普通用いる字体よりも簡単でより速い方法で書こうとすると、そこには必然的に速記的な現象が起こる。まさに速記の歴史は文字とともにあるとすることができる。

世界で最も古い速記の史料は、ギリシャのアクロポリスの廃墟で発見された大理石の破片で、そこには簡単な符号で碑文が刻まれていたという。

ローマ時代では、政治家であり哲学者でもあったキケロ (Marcus Tullius Cicero) がその解放奴隷ティロ (Tiro) に考案・使用させたものが有名である。その方式は、当時のローマの元老院でも用いられたという。

近代の速記方式は、1588年にイギリス人ブライト (Timothy Bright) が発表したものに始まり、その後改良が続けられて、1803年から議会会議録の作成も行われるようになった。しかし、一般に普及するのは、1837年に同じくイギリス人のピットマン (Isaac Pitman) が在来の略記的筆記法を改めて、記音的筆記法を発明してからになる。この方式は、簡単な幾何学的直線や曲線によってすべての音をあらわすことができるもので、現在、世界各国で行われている逐語速記はすべてこのピットマンの方式の流れをくんだものだと言える。

一方、我が国においては、草仮名 (そうがな・草書体の万葉仮名) や片仮名も速記方式的と言えようかと思うが、近代の西洋流の速記は、明治維新後に欧米文化の一つとして紹介されたのに始まる。その中で、田鎖綱紀がアメリカのグラハム (Graham) 式=ピットマン系に基づいて日本語速記法を考案し、1882年 (明治15年) 10月28日、東京で日本傍聴筆記法講習会を開いた。これが我が国の近代速記方式の初めである。後年、この10月28日が速記記念日となるわけである。この講習会の修了者に若林珅蔵や林茂淳らがいたが、彼らが、まだ未完成であった田鎖綱紀の方式に改良を重ねて、日本の速記法を完成へと持っていったのである。

日本で速記が実用に供されたのは、1883年、若林が郵便報知新聞の依頼で自由新聞に対する記事取り消し要求の談判を速記したのが最初であると言われている。その後、速記の利用分野は、口述（矢野龍溪「経国美談」・1883年）、講演、地方議会（埼玉県会・1884年）などに及んだが、特に三遊亭円朝述「怪談牡丹燈籠」（1884年）に始まる講談速記は広く世人に親しまれ、また言文一致の推進力ともなった。「速記」という言葉も、「経国美談」の巻末で矢野が「速記法」という言葉を用いて以来、広く一般に使われるようになっていった。

日本の憲政史の上でも、また我々速記者にとっても大きな誇りとなっているのは、第1回帝国議会（1890年）から国会の議事速記録がすべてそろっているということである。国会への速記の導入は、初代の貴族院書記官長であった金子堅太郎の英断によるところが大きいと言われているが、その陰には若林珪蔵、林茂淳らの多大な貢献があったことも見逃してはならない。国会への採用を契機として、速記術は急速な進歩を遂げ、また速記も職業としてのひとり歩きができるようになったのである。

速記方式も、田鎖、若林の系統を中心として、多くの研究者によって新たに創始され、あるいは改良がなされてきた。参議院式、衆議院式も、ともに田鎖式から出発してそれぞれ独自に改良を加えつつ現在に至っている。

今日では、録音・録画技術やOA機器の発達など、速記を取り巻く周囲の状況も大きく変化している。そういう中で速記者の果たす役割も、記録の作成にとどまらず、記録情報の提供、管理など、広範にわたるようになってきている。しかし、ここに至るには、これまで紹介したような長い歴史と多くの人々の努力の集大成があったということも忘れてはならない。

速記の学習について

(1) 速記符号の習得について

初めの約3カ月は速記符号の習得に充てられる。まず「音」をあらわす符号から入り、徐々に「意味」をあらわす符号へと進んでいく。最初は単語しか書けないが、3カ月後には、ゆっくりではあっても大体どんな文章でも書けるようになる。この期間内に最低必要な符号はすべてマスターすることになる。

次に、符号を学習する際の留意点や練習方法を挙げておく。

① その日に出た符号はその日のうちに覚えよう。

当養成所の本科の課程は2年間となっている。この期間で何とかプロとして通用する段階まで進んでいくためには、最初の3カ月程度で最低必要な符号はすべてマスターする必要がある。その日に出た符号はその日のうちに覚えるようにしよう。

② 頭で覚えてただけではだめ、手が覚えるまで練習しよう。

「アサ」と言われたらすぐ「アサ」という符号が正確に頭に浮かぶのが第1の段階、そして同時に手が動いて、正確な符号を紙の上に書く、これが第2の段階である。この2つの段階が同時に行われて初めて「速記」と言うことができる。そのためにはひたすら書く以外にない。頭で覚えるだけではなく、手が覚えるまで何回でも練習しよう。

③ 符号は決して速く書く必要はない、丁寧に書こう。

速記符号は正確に読めて初めて意味があるのであって、読めなければただの落書きと同じである。練習を積むに従って徐々にスムーズに書けるようになってくるので、決して速く書こうなどとはせず、正確に丁寧に書こう。

(2) 上手に言葉を聞き取るについて

符号を書く前に、まず、発せられた言葉を正確に聞き取ることが大事である。速記をしていると、話す速度に符号が追いつかなくなることがある。そういうときには、聞き取った内容を少しためて符号を書くことになる。話を上手に聞くということは、速記の場合、正確に聞くことと、聞いたことをある程度ためておけるということの意味する。話を即座に書き取ろうとすると、常に速度との競争になり、かえって速度感が増すものである。話を少しずつためて聞いてみよう。話には必ず間がある。そこで多少のおくれは取り戻せるのである。話を上手に聞くことができれば、それだけ符号を書く際にも余裕が生まれる。その練習方法を2つほど挙げておく。

① 一語一句漏らさず聞く練習をしよう。

テレビやラジオのニュースあるいは朗読などでもいいが、それを聞いて、そのとおり復唱してみよう。最初は難しいかもしれないが、だんだんできるようになってくる。

② 新聞の記事などをそのまま写してみよう。

最初は数単語から、できるようになったら2、3行単位で覚えて、それをそのまま書いてみる練習をしてみよう。最初は普通の文字で、符号を覚えたら符号で書いてみよう。

(3) 知識・教養の習得について

養成所の2年間で必要な知識・教養をすべて身につけるということは、困難なことだと言わなければならない。しかし、世の中の動きに関心を持っていればいろいろな情報を仕入れることができる。新聞やテレビで報じられていることもだんだん理解できるようになってくる。とにかく言葉に敏感になることが大事である。知らない言葉や耳なれない表現に出会ったら、必ず辞書などで確認しよう。そういう積み重ねが後々必ず生きてくることになる。

実務につくと、養成所時代以上に真の知識・教養、判断力が求められることになる。常にアンテナを磨いておくよう心がけてほしい。

第一章

基礎編

基本符号

次ページの図は、日本語の音節（通常一まとまりの音として意識され、発音される音の単位）をあらわしたものである。速記符号のうち、この音節に対して与えられる符号を基本符号という。

この基礎編では、基本符号を学ぶ。基本符号をマスターすれば、ほとんどの日本語を速記で書くことができる。実際には基本符号だけでは話し言葉の速度にはついていけないので、省略法、略字なども駆使することになるが、この基本符号がすべての基礎になるので、しっかり身につけるようにしてほしい。

なお、これから学んでいく符号は、「折衷式」と呼ばれる系統に属する。日本の速記の方式はおおむね「単画式」、「複画式」、そして両者をミックスした「折衷式」に分けられる。

「単画式」は、基本符号をすべて一画の直線または曲線で構成して、少ない線で書けるよう工夫されたものである。しかし、速く書ける反面、符号の角度や書く位置を微妙に区別する必要がある、判読もやや難解な点があるなど、使い手によっては十分に使いこなせない場合もあると言われている。

「複画式」は、基本符号を直線・曲線と小円の組み合わせであらわすもので、読みやすい反面、高速度への対応には若干の難点を持っている。

「折衷式」は、いわば両者の中間に位置するものと言えるが、これから学んでいくのは、より「単画式」に近い符号である。それだけに十分な正確性が要求されるので、手がしっかり覚えるまで練習を繰り返してほしい。

日本語の音節

	直 音						拗 音		
		ア列	イ列	ウ列	エ列	オ列	ア列	ウ列	オ列
清 音	ア行 カ行 サ行 タ行 ナ行 ハ行 マ行 ヤ行 ラ行 ワ行	ア カ サ タ ナ ハ マ ヤ ラ ワ	イ キ シ チ ニ ヒ ミ リ	ウ ク ス ツ ヌ フ ム ユ ル	エ ケ セ テ ネ ヘ メ レ	オ コ ソ ト ノ ホ モ ヨ ロ ヲ	キャ シャ チャ ニャ ヒャ ミャ リャ	キュ シュ チュ ニユ ヒュ ミュ リュ	キョ ショ チョ ニョ ヒョ ミョ リョ
濁 音	ガ行 ザ行 ダ行 バ行	ガ ザ ダ バ	ギ ジ ヂ ビ	グ ズ ヅ ブ	ゲ ゼ デ ベ	ゴ ゾ ド ボ	ギャ ジャ チャ ビャ	ギュ ジュ ヂュ ビュ	ギョ ジョ ヂョ ビョ
半濁音	パ行	パ	ピ	プ	ペ	ポ	ピャ	ピュ	ピョ
特殊音	「撥音」は「ン」であらわす。 「促音」は「ッ」であらわす。 「長音」は直音・拗音に「ー」をつけてあらわす。								

(注…大きさは実際の符号の2倍大)

基本線の長さが 8 mm を超えても他の符号とのバランスがとれていれば正しく読めるが、1 cm を超えると書記能率が落ちるので、余り長くないように注意する。

- 10 -

五十音図

あ	㇏	い	㇏	う	丨	え	㇏	お	㇏
か	—	き	—	く	—	け	—	こ	—
さ	)	し	㇏	す	)	せ	㇏	そ	㇏
た	/	ち	/	つ	丨	て	㇏	と	/
な	㇏	に	㇏	ぬ	㇏	ね	㇏	の	㇏
は	㇏	ひ	㇏	ふ	㇏	へ	㇏	ほ	㇏
ま	㇏	み	㇏	む	㇏	め	㇏	も	㇏
や	㇏			ゆ	㇏			よ	㇏
ら	㇏	り	㇏	る	㇏	れ	㇏	ろ	㇏
わ	㇏							ん	㇏

① 清 音

清音は、符号の最後をしっかりととめる。

また、1つの言葉あるいは熟語は続けて書く。

あ	ゐ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ	
さ	し	す	せ	そ	

※ 符号の連綴の際は、接続部をしっかりと角づけをする。特に接続部が鈍角となるときは、曲線にならないように十分注意する。

◇ 連綴例

あか	いえ	うお	えさ	おか	かそ	きけい	くさ
けさ	こけ	さか	しお	すそ	せかす	そあく	

—練習問題—

- | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| ☐ あお | ☐ あかし | ☐ あきす | ☐ あさせ | ☐ いか | ☐ いけ |
| ☐ いしき | ☐ いす | ☐ うえき | ☐ うけ | ☐ うす | ☐ うそ |
| ☐ えいこう | ☐ えかき | ☐ えき | ☐ えせ | ☐ おき | ☐ おけ |
| ☐ おさ | ☐ おしおき | ☐ かおく | ☐ かおす | ☐ かくえき | ☐ かけい |
| ☐ きおう | ☐ きかく | ☐ きし | ☐ きせき | ☐ くいき | ☐ くき |
| ☐ くけい | ☐ くせ | ☐ けいき | ☐ けう | ☐ けしき | ☐ けす |
| ☐ こいし | ☐ こさく | ☐ こすい | ☐ こせき | ☐ さえき | ☐ さお |
| ☐ さけかす | ☐ さしえ | ☐ しあい | ☐ しかく | ☐ しきし | ☐ しこ |
| ☐ すあし | ☐ すう | ☐ すこあ | ☐ すすき | ☐ せかい | ☐ せきさい |
| ☐ せこ | ☐ せそう | ☐ そかい | ☐ そこそこ | ☐ そしき | ☐ そすう |

た	／	ち	／	つ	丨	て	＼	と	／
な	ㄣ	に	ㄣ	ぬ	ㄣ	ね	ㄣ	の	ㄣ
は	ㄣ	ひ	ㄣ	ふ	ㄣ	へ	ㄣ	ほ	ㄣ

◇ 連綴例

たけのこ



ちほ



つね



ておけ



とこなつ



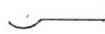
なさけ



におい



ぬか



ねこ



のと



はち



ひにく



ふね



へた



ほのか



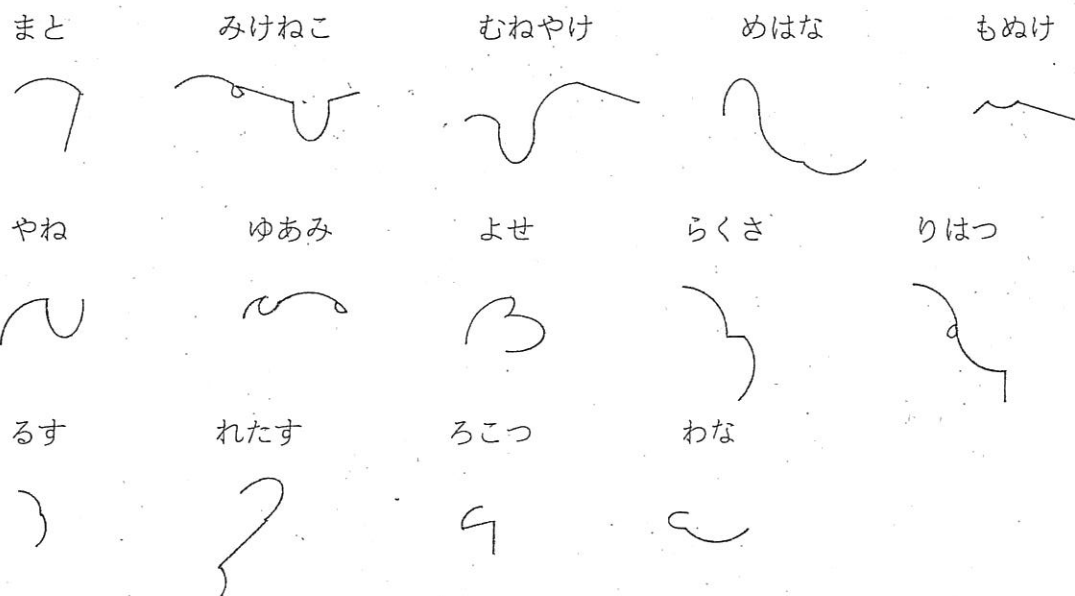
—練習問題—

- | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| ☐ あてな | ☐ いぬ | ☐ うちき | ☐ えのき | ☐ おとな | ☐ かたな |
| ☐ きぬた | ☐ くちなし | ☐ けなす | ☐ こはく | ☐ さいふ | ☐ しへい |
| ☐ すね | ☐ せなか | ☐ その | ☐ たいか | ☐ たにし | ☐ たね |
| ☐ ちえ | ☐ ちかてつ | ☐ ちねつ | ☐ つくえ | ☐ つけ | ☐ つなひき |
| ☐ てつ | ☐ てなおし | ☐ てはい | ☐ とくひつ | ☐ としこし | ☐ とほ |
| ☐ なけなし | ☐ なたね | ☐ なつ | ☐ にくたい | ☐ にせきつ | ☐ にないて |
| ☐ ぬけあな | ☐ ぬた | ☐ ぬの | ☐ ねうち | ☐ ねた | ☐ ねつ |
| ☐ のきさき | ☐ のし | ☐ のなか | ☐ はたけ | ☐ はつに | ☐ はな |
| ☐ ひとはた | ☐ ひなた | ☐ ひへい | ☐ ふけつ | ☐ ふた | ☐ ふなぬし |
| ☐ へきえき | ☐ へきち | ☐ へそ | ☐ ほたて | ☐ ほねぬき | ☐ ほひつ |

ま	ー	み	ー	む	ー	め	ー	も	／
や	ー			ゆ	ー			よ	ー
ら	ー	り	ー	る	ー	れ	ー	ろ	ー
わ	ー							ん	／

※符号「ん」については、「撥音」の項参照。

◇ 連綴例



—練習問題—

- | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| ☐ まくら | ☐ まさかり | ☐ まち | ☐ まなこ | ☐ みかえり | ☐ みそ |
| ☐ みつめ | ☐ みやこ | ☐ むかし | ☐ むくち | ☐ むすこ | ☐ むら |
| ☐ めおと | ☐ めかけ | ☐ めかた | ☐ めやす | ☐ もけい | ☐ もすく |
| ☐ もろみ | ☐ もめる | ☐ やおもて | ☐ やおや | ☐ やくよけ | ☐ やけくそ |
| ☐ ゆのみ | ☐ ゆみなり | ☐ ゆめ | ☐ ゆるやか | ☐ よそみ | ☐ よつゆ |
| ☐ よめいり | ☐ よりみち | ☐ らおす | ☐ らすと | ☐ らむね | ☐ られつ |

☐りえき ☐りか ☐りひ ☐りふと ☐るいせき ☐るせつ
☐るり ☐れいはい ☐れきし ☐れつあく ☐れふと ☐ろくまく
☐ろめい ☐ろれつ ☐わかもの ☐わけまえ ☐わやく ☐わるつ

【 注 意 】

1. 符号を原則どおり連綴すると交差する場合があるが、その場合、符号を少しゆがめて、交差を避けて書く方が読みやすくなる。ただ、極端にゆがむようなときは、かえって誤読しやすいから、交差して書く。（その際、前字と後字を離さないように注意する。）

世界  →  嫁  → 

ネタ  → 

2. イ列子音字に続く符号は、能率を考慮して書く。

北  →  紙幣  →  光  → 

② 濁 音

濁音の語は、清音符号の中央の位置に点を1つ付す。

が	—	ぎ	—	ぐ	—	げ	—	ご	—
ざ	.)	じ	.)	ず	.)	ぜ	.)	ぞ	.)
だ	/	ぢ		づ		で	ヽ	ど	/
ば	.)	び	.)	ぶ	.)	べ	.)	ぼ	.)

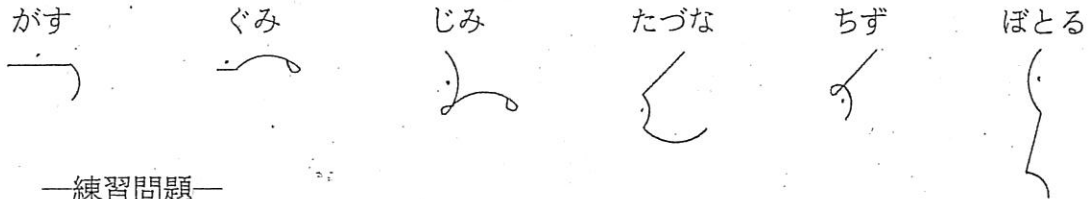
【 説 明 】

1. 「ぢ」「づ」は、書きにくい場合を除いて、「じ」「ず」を用いる。

「ずっ」は「つつ」を使った方が書きやすい。

2. 濁音の点は、1音1音打たずに、連綴後に打つ。

◇ 連綴例



—練習問題—

- | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| ☐ がれき | ☐ きちがい | ☐ ぎふ | ☐ うさぎ | ☐ ぐれる | ☐ とぐろ |
| ☐ げそく | ☐ くらげ | ☐ ごま | ☐ まいご | ☐ ざる | ☐ かざかみ |
| ☐ じならし | ☐ まじめ | ☐ ずけい | ☐ ねずみ | ☐ ぜに | ☐ あぜみち |
| ☐ ぞくはつ | ☐ かぞく | ☐ だるま | ☐ いかだ | ☐ でも | ☐ ひでり |
| ☐ どて | ☐ はどめ | ☐ ばす | ☐ わくらば | ☐ びきに | ☐ いさりび |
| ☐ ぶり | ☐ かぶき | ☐ べると | ☐ なべもの | ☐ ぼや | ☐ にちぼつ |

※ 連 濁 音

濁音が連続するものを「連濁音」という。連濁音は、当該2符号の接続部分に付点することで、点を1つ省略することができる。

◇ 連綴例



—練習問題—

- | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| ☐ うでぐみ | ☐ うぶぎ | ☐ えだぶり | ☐ かざぐるま | ☐ ごじら | ☐ すげがさ |
| ☐ どぶろく | ☐ なべづる | ☐ びざ | ☐ まどべ | ☐ みずがめ | ☐ むぎぶえ |

【 注 意 】

濁音の付点は、これから学習する撥音、長音、拗音など、濁音を形成するものすべてについて行われる。

この濁音の付点は、打ち忘れてもしばしば読めることがあるので、つい不精をして打たない者があるが、これは日ごろの練習において必ず習慣づけておかないと、誤読のもとになる。

以下に挙げる例はほんの一例であるが、意味から考えても清濁の区別がつかず、せっかく書いても、点1つを打ち忘れたばかりに、判断に迷ってしまうものである。

▷ 例 ◁

- この指輪の台は〔 金・銀 〕でできている。
- キャベツは今、一つ〔 市価・時価 〕では幾らですか。
- 私はこの前〔 心臓・腎臓 〕の手術をした。
- そんな〔 無法・無謀 〕なやり方はいけない。

このほかにも、以下のように、紛らわしい語が多いので、極力、付点するように心がけること。

- | | | |
|-----------|---------|------------|
| ○ 会期－会議 | ○ 会計－概計 | ○ 各界－学界・学会 |
| ○ 項－号 | ○ 降雨－豪雨 | ○ 高慢－傲慢 |
| ○ 時期－時宜 | ○ 執行－実行 | ○ 審問－尋問 |
| ○ 精神病－成人病 | ○ 先回－前回 | ○ 先日－前日 |
| ○ 選集－全集 | ○ 先例－前例 | ○ 団交－談合 |
| ○ 返済－弁済 | | |

③ 半 濁 音

半濁音は、濁音の反対側に付点する。

ぱ	ピ	ぷ	ぺ	ぽ
				

※ 半濁音は、日本語では、擬声語、擬態語、もしくは撥音、促音の後に来る「ハヒフヘホ」が「パピプペポ」に転化するときだけにあらわれ、その他は外来語である。ここでは、外来語の用例のみにとどめ、日本語の用例は「撥音」「促音」の項に譲る。

◇ 連綴例



—練習問題—

- | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| ☐ パリ | ☐ アズパラ | ☐ スパルタ | ☐ ピクルス | ☐ ピストル | ☐ パピルス |
| ☐ プライド | ☐ プロペラ | ☐ ポプラ | ☐ ペシミズム | ☐ ペスト | ☐ スペル |
| ☐ ポルノ | ☐ スポイル | ☐ ルポ | | | |

④ 撥 音

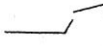
あ ん	し+	い ん	っ+	う ん	ゝ+	え ん	ゝ+	お ん	ゝ+
か ん	—+	き ん	— ^ハ +	く ん	—+	け ん	—+	こ ん	—+
さ ん	) +	し ん	) ^ハ +	す ん	) +	せ ん	) +	そ ん	) +
た ん	/ +	ち ん	/ ^ハ +	つ ん	ゝ+	て ん	ゝ+	と ん	/ +
な ん	— ⁺	に ん	— ^ハ +	ぬ ん	— ⁺	ね ん	∪ ⁺	の ん	) ⁺
は ん	∪ ⁺	ひ ん	∪ ^ハ +	ふ ん	∪ ⁺	へ ん	∪ ⁺	ほ ん	(⁺
ま ん	— ⁺	み ん	— ^ハ +	む ん	— ⁺	め ん	∪ ⁺	も ん	ゝ+
や ん	∪ ⁺			ゆ ん	∪ ⁺			よ ん	∪ ⁺
ら ん	∪ ⁺	り ん	∪ ^ハ +	る ん	∪ ⁺	れ ん	∪ ⁺	ろ ん	∪ ⁺
わ ん	∪ ⁺								

- 撥音は、清音の字端を流すことによってあらわす。
- ただし、イを除くイ列の音は、前ページの表のように、ア列の字端をはねる。
- 撥音の濁音、半濁音の付点は、「濁音」「半濁音」と同じ要領で行う。

【 注 意 】

この撥音で注意しなければならないのは、撥音の次に来る符号の書き方である。ここで初めて、1つの単語でも符号を離して書く書き方が出てきたわけであるが、このような字端を流す書き方は、後述する「長音」でも出てくるので、これと区別するために、撥音の次の符号は必ず流した（はねた）直近の位置から書き始める。

◇ 連綴例

安穩	陰陰	円満	金庫	参加	残存	震撼
						
寸分	団らん	番地	品位	ピンチ	偏見	ペンダント
						
香港	文句	臨時	論議	廉価	ワンマン	
						

—練習問題—

- | | | | | | |
|---------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 安眠 | ☐ 印鑑 | ☐ 運搬 | ☐ 演壇 | ☐ 温泉 | ☐ 勘案 |
| ☐ 近隣 | ☐ 訓練 | ☐ 言論 | ☐ 混乱 | ☐ 散漫 | ☐ 真剣 |
| ☐ 寸断 | ☐ 先端 | ☐ 尊厳 | ☐ 鍛錬 | ☐ 賃金 | ☐ ツンドラ |
| ☐ 転換 | ☐ 鈍感 | ☐ 難問 | ☐ 人間 | ☐ 云々 | ☐ 念願 |
| ☐ のんき | ☐ 判断 | ☐ 貧困 | ☐ 分別 | ☐ 返信 | ☐ 本尊 |
| ☐ 蔓延 | ☐ 村民 | ☐ 面談 | ☐ 門前 | ☐ ヤング | ☐ ユング |
| ☐ クレヨン | ☐ 乱心 | ☐ 林間 | ☐ ケルン | ☐ 練炭 | ☐ ロンドン |
| ☐ ワンタンめん | | | | | |

⑤ 長 音

あ ー	しナ	い ー	つ ナ	う ー	ーナ	え ー	ゝナ	お ー	ナ
か ー	ーナ	き ー	ー	く ー	ーナ	け ー	ーナ	こ ー	ー
さ ー	ナ	し ー	ー	す ー	ナ	せ ー	ナ	そ ー	ー
た ー	ナ	ち ー	ー	つ ー	ナ	て ー	ナ	と ー	ー
な ー	ナ	に ー	ー	ぬ ー	ナ	ね ー	ナ	の ー	ー
は ー	ナ	ひ ー	ー	ふ ー	ナ	へ ー	ナ	ほ ー	ー
ま ー	ナ	み ー	ー	む ー	ナ	め ー	ナ	も ー	ー
や ー	ナ			ゆ ー	ナ			よ ー	ー
ら ー	ナ	り ー	ー	る ー	ナ	れ ー	ナ	ろ ー	ー
わ ー	ナ								

- ア行並びにア列、ウ列、エ列の長音は、撥音と同じく、清音の字端を流す。
(単独の形は、撥音と同じになる)
- イを除くイ列の長音は、清音の字端の丸を大きく結ぶ。
- オを除くオ列の長音は、同行ア列の清音符号の2倍の大きさ(16ミリ)で書く。
- 長音の濁音、半濁音の付点は、「濁音」「半濁音」と同じ要領で行う。

【 説 明 】

日本語の字音としては、長音というものはなく、

(ア列)	(イ列)	(ウ列)	(エ列)	(オ列)
ああ	いい	うう	ええorえい	おおorおう
かあ	きい	くう	けえorけい	こおorこう

という形で存在するが、速記においては、発音に即して、

アー	イー	ウー	エー	オー
カー	キー	クー	ケー	コー

というふうに、長音化して、長音符号を用いる。下の例に示すように、この方が速記においては効率的である。

◇ 例

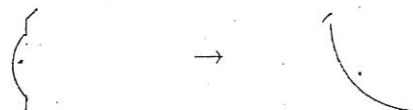
有名



映画



横暴



【 注 意 】

前述したように、ア行並びにア列、ウ列、エ列の長音は、撥音と同じ形になる。そこで注意しなければならないのは、次に続く符号の位置である。

「撥音」の項で述べたように、撥音の次の符号は、流した（はねた）直近の位置から書き始めるが、これと区別するために、長音の次の符号は長音符号の横中央部付近から書き始める。

この区別を怠ると、判読が困難な場合が出てくる。

◇ 例

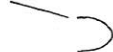
えんだん



えいだん



けんせい



けいせい



※ 長音＋撥音

長音の後に撥音が続く場合は、以下2通りの書き方がある。

例えば、「コーン」の場合、①「コー＋ン」と②「コ＋オン」という書き方である。

以下に例を示すが、これは適宜、書きやすい方法で書いていく。

なお、ここで初めて基本符号の「ん」を使用することになる。

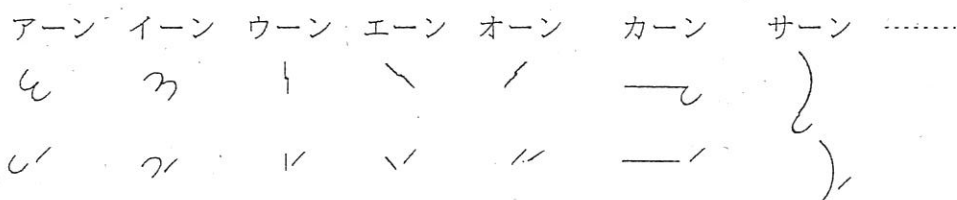
1. オを除くオ列の長音＋ン



2. イを除くイ列の長音＋ン



3. 上記以外の長音＋ン

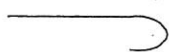


◇ 連綴例

大げさ



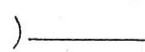
構成



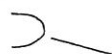
サーモン



崇高



生計



地位



丁寧



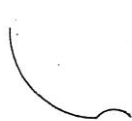
統制



オーバーローン



ホーム



用途



系統



—練習問題—

- | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| ☐ アーチ | ☐ イイダコ | ☐ ウール | ☐ 栄光 | ☐ オーダー |
| ☐ カークラー | ☐ 生糸 | ☐ 空論 | ☐ 経緯 | ☐ 氷 |
| ☐ サーカス | ☐ シーレーン | ☐ スーパー | ☐ 清掃 | ☐ 相違 |
| ☐ ターン | ☐ チーズ | ☐ 通行 | ☐ 貞操 | ☐ 統合 |
| ☐ ナース | ☐ 新妻 | ☐ ヌードル | ☐ ネーブル | ☐ 農耕 |
| ☐ バーベル | ☐ ビール | ☐ 風貌 | ☐ 平家 | ☐ 法廷 |
| ☐ マーチ | ☐ 見出す | ☐ ムービー | ☐ 明治 | ☐ 毛沢東 |
| ☐ プレーヤー | ☐ 勇気 | ☐ 養成 | ☐ レスラー | ☐ リード |
| ☐ ルーチン | ☐ 励行 | ☐ 廊下 | ☐ チームワーク | |

⑥ 拗 音

1. 拗音の清音・濁音・半濁音

きゃ	きゅ		きょ
丨	丨		丨
しゃ	しゅ	しえ	しよ
↗	↘	↘	↘
ちゃ	ちゅ	ちえ	ちよ
↗	↘	↘	↘
にゃ	にゅ		にょ
⌒	⌒		↘
ひゃ	ひゅ		ひょ
↘	↘		↘
みゃ	みゅ		みょ
⌒	⌒		⌒
りゃ	りゅ		りょ
↘	↘		↘
ファ	フィ	フェ	フォ
↘	↘	↘	↘

ぎゃ	ぎゅ		ぎょ
丨	丨		丨
じゃ	じゅ	じえ	じよ
↗	↘	↘	↘
びゃ	びゅ		びょ
↘	↘		↘

ぴゃ	ぴゅ		ぴょ
↘	↘		↘

- 「しゃ」は、どちらの方向から書いてもよい。
- 「きゅ」「ちゅ」「にゅ」「ひゅ」「ひょ」「みょ」「りゅ」は、日本語では、「窮地」「中心」「乳牛」「日向」「評価」「妙味」「流行」のように、長音として用いられる。（次ページ参照）

それ以外では、「ぎゅうぎゅう詰め」「ヒュッテ」「ひょいと」などのように、擬態語もしくは外来語になる。

「ファイト」「フェンス」「フォーマル」というような日常よく耳にする言葉は、「ハ行」を使用して、「ハイト」「ヘンス」「ホーマル」としても十分判読可能である。ただ、固有名詞などについては、より正確さを求めるために、固有の符号を使用する方が望ましい。

- 「きゃ」「にゃ」「ひゃ」「みゃ」「りゃ」は、日本語では、「く」をつけて「きゃく」「にゃく」「ひゃく」「みゃく」「りゃく」というふうに使われる場合が多い。使わないのは「般若」くらいなので、これらは1字で「きゃ」「きゃく」両方に読んで差し支えない。

◇ 連綴例

客間



書記



著書



般若



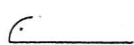
百聞



脈動



旅行



ファイト



養成所



—練習問題—

- | | | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| ☐ キャベツ | ☐ キュリー | ☐ 許可 | ☐ 医者 | ☐ 趣味 |
| ☐ シェパード | ☐ 処遇 | ☐ カボチャ | ☐ チュニジア | ☐ チェス |
| ☐ チョコレート | ☐ 若声 | ☐ ニュルンベルク | ☐ 如来 | ☐ 百葉箱 |
| ☐ 山脈 | ☐ 略語 | ☐ 旅費 | ☐ ピュア | ☐ ファミリー |
| ☐ フィルム | ☐ フェミニスト | ☐ フォワード | ☐ ギャグ | ☐ 金魚 |
| ☐ 邪道 | ☐ 甘受 | ☐ エトランジェ | ☐ 控除 | ☐ 白夜 |

2. 拗音の長音・撥音

きゃー	きゅー		きょー	きゃん	きゅん		きょん
							
しゃー	しゅー	しえー	しよー	しゃん	しゅん	しえん	しよん
							
ちゃー	ちゅー	ちえー	ちよー	ちゃん	ちゅん	ちえん	ちよん
							
にゃー	にゅー		にょー	にゃん	にゅん		にょん
							
ひゃー	ひゅー		ひょー	ひゃん	ひゅん		ひょん
							
みゃー	みゅー		みょー	みゃん	みゅん		みょん
							
りゃー	りゅー		りょー	りゃん	りゅん		りょん
							
ファー	フィー	フェー	フォー	ファン	フィン	フェン	フォン
							

○ 拗長音、拗撥音の濁音、半濁音については、「濁音」「半濁音」と同じ要領で付点する。

○ 前ページの表は、すべての音について制定しているわけではない。

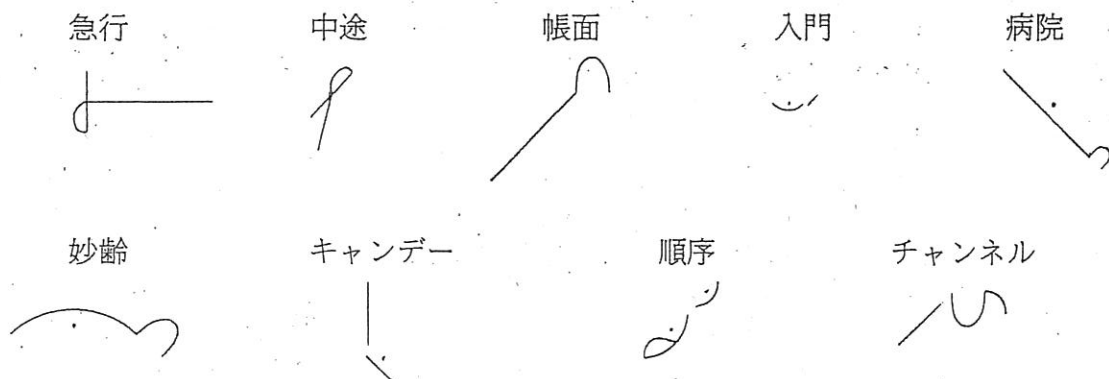
例えば、「ヴァ〜ヴォ」「ツァ〜ツォ」「ティ」「フュ」などは符号がないわけであるが、これらは以下に述べる変音の処理をすることによって書きあらわす方が効率的であるので、その方法で書きあらわす。

また、符号が制定してあっても、P.25で述べたように、適宜、書きやすいように変音して書いてもよい。

ただし、固有名詞あるいは知らない語句については避けること。

(変音例) コンツェルン → コンチェルン or コンテルン
 デュエット → ジュエット
 パーティー → パーチー or パーテー
 フュージョン → ヒュージョン or フージョン

◇ 連綴例



—練習問題—

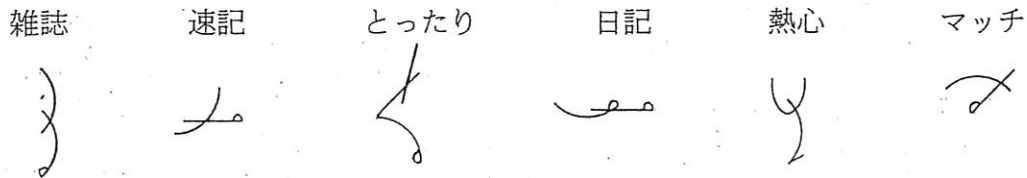
- | | | | | |
|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| ☐ 休暇 | ☐ 教科書 | ☐ メジャー | ☐ 収入 | ☐ シェーカー |
| ☐ 消防署 | ☐ チャーチル | ☐ 注意 | ☐ チェーホフ | ☐ 長期 |
| ☐ 入手 | ☐ 女房 | ☐ ヒューズ | ☐ 病棟 | ☐ ミュージカル |
| ☐ 巧妙 | ☐ 流入 | ☐ 料理 | ☐ ファーム | ☐ トロフィー |
| ☐ フェース | ☐ フォーム | ☐ キャンペーン | ☐ 上海 | ☐ シャンツェ |
| ☐ 早春 | ☐ ジェントル | ☐ テンション | ☐ チャンピオン | ☐ フォーチュン |
| ☐ チェンバロ | ☐ ちゃん切る | ☐ クーニャン | ☐ アビニョン | ☐ ミュンヘン |
| ☐ ファンタジー | ☐ パラフィン | ☐ フェンス | ☐ フォンテンブロー | |

⑦ 促音

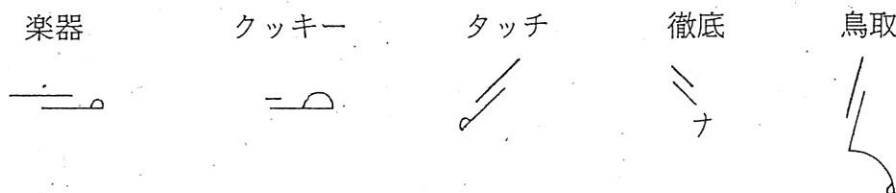
促音の語は、符号を交差もしくは平行させることによってあらわす。

◇ 連綴例

1. 交差させる方法によるもの



2. 平行させる方法によるもの（符号が直線で、角度が同じ場合）



※ 平行させる場合は、次の符号を前字から少しずらして、前後がわかるようにする。

—練習問題—

- | | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| ☐ 圧倒 | ☐ アップル | ☐ 一致 | ☐ ホイップ | ☐ 訴え |
| ☐ ウッド | ☐ 越冬 | ☐ 追っ手 | ☐ 学級 | ☐ カット |
| ☐ 喫緊 | ☐ 切符 | ☐ ギャップ | ☐ クッキング | ☐ 屈折 |
| ☐ 決定 | ☐ 欠陥 | ☐ こっけい | ☐ コットン | ☐ 刷新 |
| ☐ 殺到 | ☐ 失神 | ☐ 出頭 | ☐ ショッピング | ☐ 酸っぱい |
| ☐ 設計 | ☐ 赤血球 | ☐ 卒倒 | ☐ 達者 | ☐ スタッフ |
| ☐ 窒素 | ☐ チップ | ☐ チャック | ☐ 空手チョップ | ☐ つっけんどん |
| ☐ 突っ込む | ☐ 鉄砲 | ☐ てっぺん | ☐ ドッキング | ☐ ホットドッグ |
| ☐ ナッツ | ☐ スナック | ☐ 日程 | ☐ 根っこ | ☐ のっぺらぼう |
| ☐ 発揮 | ☐ アパッチ | ☐ ピッチャー | ☐ 白虎隊 | ☐ ビュッフェ |
| ☐ ひょっとこ | ☐ 物騒 | ☐ ベッド | ☐ 坊ちゃん | ☐ 没頭 |
| ☐ 真っ向 | ☐ ミックス | ☐ むっちり | ☐ メッシュ | ☐ モットー |
| ☐ やっと | ☐ ゆったり | ☐ ヨット | ☐ ラッキー | ☐ フラッシュ |
| ☐ 立憲 | ☐ クリップ | ☐ ルックス | ☐ レッテル | ☐ ロックアウト |
| ☐ ブロック | ☐ ワッペン | ☐ スワップ | ☐ ファッション | ☐ フィット |

⑧ 畳 音

同じ音が重なった場合、または2音節以上の音が重なった場合、「・」あるいは「∧」を用いて、後の音を省略することができる。

1. 単畳音

2音までの繰り返しのときには、「・」で次の音を省略する。

点は、後述する「シ音の省略」との混同を避けるため、前の符号の終筆部の直近（右横）に打つ。

ただし、3音目が長音、または「い」の音が続く場合は使用しない。

◇ 例1.

父	耳	鏡	くれぐれも	高校	平米
／	・	—・	ㄣ	——	シ

◇ 例2.

かかあ天下 —・ → ———

※ 上記の例にもあるように、「ただ」「はば」など、後の音が濁音の場合にも用いる。

2. 複畳音

3音以上の繰り返しには、「∧」を用いる。

◇ 例

かわるがわる	ところどころ	返す返すも
—∧	／∧	—∧

3. 畳音＋撥音

3音目に「ん」が来る場合は、点の位置に「ノ」を書いてあらわす。

◇ 例

果敢	げげん	多端
——ノ	——ノ	／／

※ 繰り返し語

1) 「～すればするほど」の類

「～すれば」を書いて、「ほど」を交差する。 (例1・例2)

2) 「～すれば～するほど」の類

「～すれば」を書いて、「 $\wedge$ 」を交差する。 (例3・例4)

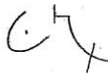
3) 「～なら～」の類

「～なら～」とか、同じ語句がしばしば繰り返される場合、その繰り返された部分に下線を引ながら、次の符号を書く位置に来たときに、大きな重畳符

「 $\wedge$ 」を続ける。 (例5)

◇ 例 (以下の例には省略法が用いてある)

1. 勉強すればするほど



2. 大きくなればなるほど



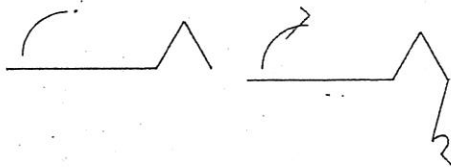
3. 勉強すれば勉強するほど



4. 大きくなれば大きくなるほど



5. やれるならやれる、やれないならやれないと言え



※ この例には、省略法が用いてある。

—練習問題—

- | | | | | |
|--|--------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| ☐ さざ波 | ☐ ススキ | ☐ 畳 | ☐ 斜め | ☐ ののしる |
| ☐ 羽ばたく | ☐ ひび割れ | ☐ 不服 | ☐ ほほ笑む | ☐ 桃の木 |
| ☐ モモンガ | ☐ 薄々 | ☐ うろうろ | ☐ きょろきょろ | ☐ こもごも |
| ☐ ごろごろ | ☐ ざわざわ | ☐ じとじと | ☐ じゃんじゃん | ☐ 楽々と |
| ☐ 古今東西 | ☐ 徒然草 | ☐ やればやるほど | ☐ 考えれば考えるほど | |
| ☐ 広くなればなるほど | ☐ 見れば見るほど | ☐ 検討すれば検討するほど | | |
| ☐ 紅茶なら紅茶、コーヒーならコーヒー | ☐ やりたいならやりたいと | | | |

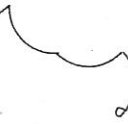
変画法

連続しているときに、符号の角度が同じ、または鈍角になってしまって書きにくい場合が出てくる。このようなときには、前後どちらかの符号の角度を変えることによって書きやすく、また読みやすくする。

◇ 例

打つ  →  書く  →  服  → 

過去  →  だと  →  暮らし  → 

お宅  →  お話  → 

※ 原則として、4ミリ以下の直線符号のみを変画する。

例えば、「区画」などは  とはせず、 と書く。

—練習問題—

- ☐音 ☐覚え ☐車 ☐小麦 ☐博多帯
☐暗がり

文章をつづる要領

これで基本符号はすべて終わり、あらゆる言葉が書けるようになったわけである。これだけでも国字で書く速さの数倍の速度で文章がつづれるが、音を1字1字書いていたのでは、まだ話し言葉に追いつくことはできない。

よって、これからはいろいろな省略法や特定の言葉に対応した省略符号を学んでいくことになる。しかし、大事なのはあくまで基本符号である。これがしっかり身につけていないと先へ進んでも混乱するばかりなので、正確な基本符号を手が完全に覚えるまで練習してもらいたい。その上で、新しく学んだ省略法等はミスを恐れず積極的に使ってほしい。

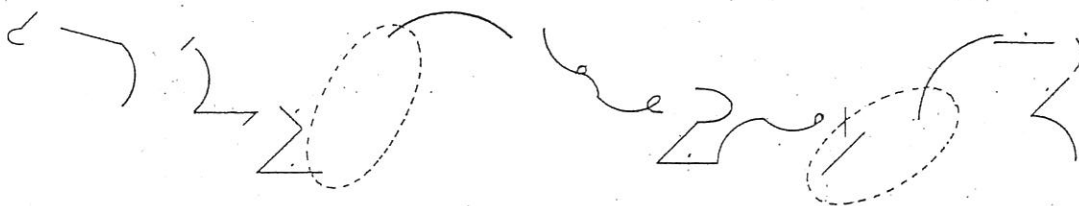
また、符号は音をあらわすものであり、国字のように、ある漢字が特定の意味を持っているものではない。例えば、「キセイ」と読む符号でも、「規制」「既成」「帰省」「寄生」「期成」「棋聖」「氣勢」「奇声」「既製」など、いろいろな漢字を当てはめることができる。日本語には同音異義語が多く、これら同音の漢字の中から文意に合った漢字を選択して訳していかなければならない。せっかく符号が書けても、訳す国字がわからなかったり、違っては何の価値もない。正しく訳してこそ初めて、速記録としての価値がある。そのためには、符号の練習と同時に、知識、教養の習得にも力を入れなければならない。

さて、これから文章をつづる段階に入るが、符号をつづるときには、国字と違って、句読点は用いない。そして、1つの言葉は、附属する助詞などまで一塊として続けて書く。この一塊を幾つかまとめて文節、句の塊をつくり、明らかに「、」や「。」で区切られるところは、次の符号を右上方から書き始めるようにする。

この、空白部分をつくって右上方から書き始めるということは、本方式の右下がりになっていく傾向を補整する効果があるばかりでなく、句読法の暗示、文意の理解に有効であるから、しっかりその感覚を覚えてもらいたい。

◇連綴例

(訳文) 私はけさ大阪を出たが、もう昼には世田谷に着いた。用事が済んだら……



【文章をつづるに当たって覚えておくべき符号】

□ ...を ...
□ ...の ...の中に ...のように ...のもの ...

□ ...から ... □ ...まで ...

□ ...という ... □ ...というように ...

□ ...というのは ... □ ...というのが ...

□ ...というものは ... □ ...というものが ...

□ ...する ... □ ...して ... □ ...しても ...

□ ...される・...られる・...われる・...まれる ⊖ー

□ ...されて・...られて・...われて・...まれて ⊖\

□ いる ⊖つ ...ている ...している ...されている ⊖\

□ おる ⊖/ ...ておる ...しておる ...されておる ⊖\

□ ...です ○) □ ...のです ○) □ ...である .../

□ ...において .../ □ ...における .../

□ ...について .../ □ ...になって .../

□ ...によって .../ □ ...による .../

□ ...にあって .../ □ ...にされて .../

□ ...に当たって .../

□ ...に関して .../

□ ...に関する .../

少し大きく丸める

(□ ...に関し ...)

□ ...に対して .../

□ ...に対する .../

□ こと ○| or .../

□ もの ⊖' or .../

※ 以下の符号は、いずれも上方から書き始める。

☐ 私 / ☐ 私ども < ☐ あなた \ ☐ あなた方 >

☐ この 1 ☐ その -

☐ これ 1+ ☐ これが 1+ ☐ これは 1+ ☐ これを 1+ ☐ これに 1+

☐ それ -+ ☐ それが -+ ☐ それは -+ ☐ それを -+ ☐ それに -+

☐ こういう / ☐ そういう / ☐ どういう /

☐ それから / ☐ これから /

☐ また / ☐ しかし / ☐ なお / ☐あるいは /

☐ あらゆる / ☐ いわゆる /

☐ 非常に / ☐ 非常な /

